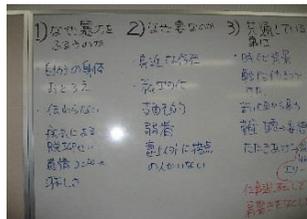




第8回シニアの精神科症例検討会

妻に暴力をふるう認知症男性の3症例

平成29年8月29日(火)19:00から、ときわ病院2階研修室にて第8回シニアの精神科症例検討会が開催されました。今回も医師、看護師、保健士、作業療法士、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなど多職種の方が参加されました。



今回は「妻に暴力をふるう認知症男性の3症例」について、医療・介護・福祉それぞれの立場からなぜ暴力をふるうのか、なぜ暴力の対象が妻なのか、共通点は何か、認知症や加齢は暴力に関係しているのか、妻に問題はないか、若い頃からの夫婦のあり方に問題はなかったか、時代背景はあるか、後世代にも

同様に持ち上がる問題か、私たちがこの人達のためにできることは何か、私たちが今後この人達のようにならないためにできることは何かなど、さまざまな切り口から検討していただきました。

暴力を振るう原因として、生きてきた環境と身体的変化が強く影響しているのではないかとの意見がありました。高度経済成長の真ただ中、夫は家庭も顧みずただがむしやりに働き、妻は黙って夫に従うことが良しと

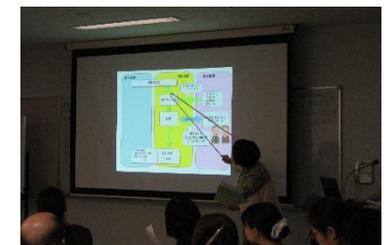
されていた時代を生きてきた夫婦。やがて夫は定年退職し、自分の役割りと存在価値を見失ったのではないのでしょうか。

さらに、難聴や精神力、思考力、判断力の低下など身体的な衰えが加わり、周囲の人を理解できず孤独感から被害的となり、その感情を最も身近な存在である妻に対する暴力というかたちで吐き出しているのではないのでしょうか。



「何をしてきたか」ではなく「今何者であるか」が重要であり、「あなたの存在そのものに価値がある」と伝える事が大事ではないのでしょうか。私たちが今後この人たちのようにならないためには、他人の評価など相対的価値観に左右されず、絶対的価値観に基づく芯のある生き方をすることが肝要でしょう。

今回は妻への暴力という身体的虐待の事例でした。虐待には、他にも心理的虐待、性的虐待、経済的虐待、ネグレクトなどがあります。対象も夫から妻に限らず、妻から夫、親から子、子から親などその形態は多様化、複雑化してきています。



もしも虐待事例に遭遇したら、当事者同士を1対1にせず、そして支援者も1人で抱えこまず、先ず市役所や地域包括支援センターへ相談してください。これら虐待事例に関して、通報から対応までの流れを、野々市市地域包括から説明していただきました。おかしいな?と思ったら、一度相談して下さい。